

## 安全データシート (SDS)

## 1 化学品及び会社情報

## 化学品の名称

製品名 アピバール  
製品コード

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名 アリスタ ライフサイエンス株式会社  
住所 東京都中央区日本橋一丁目 4 番 1 号  
担当部署 マーケティング本部  
電話番号 03-5203-9310

(製品の使用方法は、03-5203-9350 に連絡すること。)

(事故等による急性中毒は下記の公益財団法人

日本中毒情報センターに連絡すること。)

## 緊急連絡電話番号

公益財団法人 日本中毒情報センター  
事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る。

中毒 110 番	一般市民専用電話 (情報提供：無料)	医療機関専用有料電話 (情報提供：1 件 2,000 円)
大阪 (365 日、24 時間対応)	072-727-2499	072-276-9923
つくば (365 日、24 時間対応)	029-852-9999	029-851-9999

なお、弊社製品に関するお問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の情報提供料 (1 件 2,000 円) は弊社が負担いたします。

## 整理番号

ALA01-22 動 3971-2

## 推奨用途

動物用医薬品  
(みつばち寄生ダニ (ミツバチヘギイタダニ) の駆除)

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

## 2 危険有害性の要約

## 化学品の GHS 分類

## 物理化学的危険性

分類できない

## 健康有害性

急性毒性 (経口) 区分 4  
皮膚感作性 区分 1  
発がん性 区分 1B  
生殖毒性 区分 2  
生殖毒性・授乳に対する又は 追加区分

授乳を介した影響

特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分2（神経系）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分2（中枢神経系、肝臓）

### 環境有害性

水生環境有害性 短期（急性） 区分1

水生環境有害性 長期（慢性） 区分1

### GHS ラベル要素

#### 絵表示



#### 注意喚起語

#### 危険有害性情報

危険

飲み込むと有害

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

授乳中の子に害を及ぼすおそれ

神経系の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、肝臓の障害のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

#### 注意書き

##### [一般的な注意書き]

医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルを持っていくこと。

子供の手の届かないところに置くこと。

使用前にラベルをよく読むこと。

##### [安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

##### [応急処置]

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。

口をすすぐこと。

皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

[保管（貯蔵）]

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

### 他の危険有害性

情報なし

### 重要な徴候及び想定される非常事態の概要

飲み込むと有害

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

授乳中の子に害を及ぼすおそれ

神経系の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、肝臓の障害のおそれ

## 3 組成及び成分情報

### 化学物質・混合物の区別

混合物

### 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 登録番号	官報公示 整理番号 (化審法・安衛法)	濃度又は濃度範囲 (wt%)
アミトラズ*	33089-61-1	-	1～<5
酢酸ビニル**	108-05-4	2-728	<1

\*化学物質排出把握管理促進法 第2種指定化学物質

\*\*化学物質審査規制法 優先評価化学物質

### GHS 分類に寄与する成分

アミトラズ、酢酸ビニル

## 4 応急措置

### ばく露経路による応急措置

吸入した場合

外気を十分に送り込み、安全のため医師の診断を受けること。

意識不明の場合には安定させた状態で横向きに寝かせること。直ちに医師の手当を受けること。

皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合は、直ちに医師の手当を受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合	まぶたを開けたまま直ちに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師の手当を受けること。 症状が持続する場合には医師に相談すること。

### 急性症状の最も重要な徴候症状

飲み込むと有害  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
神経系の障害のおそれ

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

発がんのおそれ  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
授乳中の子に害を及ぼすおそれ  
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、肝臓の障害のおそれ

### 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

ばく露による二次災害の防止のため、『8 ばく露防止及び保護措置』の保護具を着用する。

### 医師に対する特別な注意事項

情報なし

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

水、CO<sub>2</sub>、粉末消火剤を使用すること。

### 使ってはならない消火剤

直接の棒状注水

### 火災時の特有の危険有害性

加熱もしくは火災の際に刺激性又は有毒ガス（CO<sub>2</sub>、CO、酸化窒素）を発生するため、消火作業時には煙を吸入しないように注意する。

### 特有の消火方法

火災の際は火元から遠ざけること。  
移動不可の場合は、周辺を水噴霧で冷却すること。  
消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避けること。

## 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際には、呼吸器用保護具、保護帽、保護メガネ、保護手袋、耐火性防護服を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

風下の人を避難させ、風上より作業する。

密閉された場所に立ち入る前に換気する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。

漏出物の処理を行う際には、適切な保護具（『8 ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用する。

### 環境に対する注意事項

製品が下水処理施設や河川に流れ込まないようにすること。

河川、下水処理施設に流れ込んだ場合には関係当局に連絡すること。

下水処理施設、地上水あるいは地下水に達しないようにすること。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

産業用真空掃除機等を用いて漏出物を取り除き、丈夫なプラスチック製ドラム缶に回収すること。

### 二次災害の防止策

全ての着火源（熱、火花、裸火、高温、静電気放電等）を取除く。

排水溝、下水溝、地下室及び閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

容器は十分に注意しながら開封し、取り扱うこと。

作業エリア内でのばく露を最小限に抑えること。

#### 安全取扱注意事項

獣医師の指導の下で使用すること。

効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

定められた用法・用量を厳守すること。

採蜜期間中及びローヤルゼリーの採取期間中は使用しないこと。

本製品を使用したミツバチ群のプロポリス、ローヤルゼリー及び蜂体は食用にしないこと。

妊娠中の女性には本剤の取り扱い作業を行わせないこと。

特に小児が本剤に触れないように注意すること。

有効成分は皮膚から吸収されるので、皮膚に付着した場合は直ちに水洗いすること。

アミトラズはモノアミン酸化酵素阻害剤（MAOI）であるので、MAOIを含有する薬剤の投与を受けている人が本剤を取り扱う場合には特に注意すること。

**接触回避  
衛生対策**

高温多湿、直射日光、熱等  
飲食をしながら使用しないこと。  
本製品使用後は、必ず手を洗うこと。

**保管****技術的対策**

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

**混触禁止物質**

酸化剤、還元剤等

**保管条件**

小児の手の届かないところに保管すること。  
本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。  
開封後は直ちに使用し、保存しないこと。  
(使用期間は6週間以内)

**安全な容器包装材料**

涼しい場所で、高温を避け、0~30°Cで保管すること。  
熱及び直射日光は避け、容器は密閉した状態に保つ。

---

**8 ばく露防止及び保護措置**

---

**管理濃度**

設定されていない

**許容濃度**

濃度基準値設定物質

10 ppm (酢酸ビニル)

八時間濃度基準値

濃度基準値設定物質

15 ppm (酢酸ビニル)

短時間濃度基準値

ACGIH TLV-TWA (2024)

データあり (酢酸ビニル)

ACGIH TLV-STEL (2024)

設定されていない

日本産業衛生学会 (2024)

設定されていない

**設備対策**

取扱い作業場の近くに手洗い・洗眼設備、安全シャワー等を設置すること。

**保護具**

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

不浸透性のゴム製の保護手袋を着用すること。

眼及び/又は顔面の保護具

保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

不浸透性の保護衣を着用すること。

保護クリーム等による予防的な皮膚の保護を推奨する。

**特別な注意事項**

情報なし

## 9 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	半透明
臭い	特異臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	可燃性であるが容易に発火しない
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	該当しない
引火点	該当しない
自然発火点	該当しない
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	該当しない
溶解度	情報なし
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	該当しない
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	情報なし
その他のデータ	情報なし

## 10 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い条件下では安定である。
化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	高温多湿、直射日光、熱等
混触危険物質	酸化剤、還元剤等
危険有害な分解生成物	加熱もしくは火災の際に刺激性又は有毒ガス (CO <sub>2</sub> 、CO、酸化窒素) を発生するため、消火作業時には煙を吸入しないように注意する。

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	分類できない マウスを用いた発がん性試験で、雌の高用量投与群に「マウス特有の発がん性あり」との報告がある。

生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 成分の有害性情報

### アミトラズ

急性毒性（経口）	<p>区分 4</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: 400~938 mg/kg</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: 400 mg/kg</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: 雌: 515 mg/kg、雄: 531 mg/kg</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: 600 mg/kg</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: 雄: 800 mg/kg</p>
急性毒性（経皮）	<p>分類できない</p> <p>ウサギ LD<sub>50</sub>: &gt; 200 mg/kg</p> <p>ラット LD<sub>50</sub>: &gt; 1,600 mg/kg</p>
急性毒性（吸入：ガス）	<p>区分に該当しない</p> <p>GHS の定義における固体である。</p>
急性毒性（吸入：蒸気）	<p>分類できない</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	<p>区分に該当しない</p> <p>ラットの LC<sub>50</sub> (6 時間): 65 mg/L (4 時間換算値: 98 mg/L)</p> <p>本物質の蒸気圧: 2.0E-006 mmHg (25°C) (飽和蒸気圧濃度換算値: 3.2E-005 mg/L)</p>
皮膚腐食性／刺激性	<p>区分に該当しない</p> <p>本物質はウサギに対して皮膚及び眼に対して刺激性を示さない。</p> <p>本物質はウサギに対して皮膚及び眼に対してごく軽度の刺激性を示す。</p> <p>EPA OPP 81-5 に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性を示さない。</p> <p>ウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性は認められなかった。</p>
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	<p>区分に該当しない</p> <p>本物質はウサギに対して皮膚及び眼に対して刺激性を示さない。</p> <p>本物質はウサギに対して皮膚及び眼に対してごく軽度の刺激性を示す。</p> <p>EPA OPP 81-4 に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性を示さない。</p> <p>ウサギを用いた眼刺激性試験で軽微ないし軽度の刺激性を示した。</p>
呼吸器感作性又は皮膚感作性	<p>呼吸器感作性：分類できない</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>皮膚感作性：区分 1</p> <p>本物質はモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Buehler 法) で感作性を示さない。</p>

	<p>本物質はモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximization 法) で感作性を示す。EPA OPP 81-6 に準拠したモルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性と報告されている。モルモットを用いた皮膚感作性試験で Maximization 法では顕著な陽性反応がみられたが、Buchler 法では陰性であった。</p>
生殖細胞変異原性	<p>区分に該当しない</p> <p><i>in vivo</i> では、経口投与によるマウスの優性致死試験、ラットの肝臓を用いる不定期 DNA 合成試験において陰性の報告がある。</p> <p><i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験及び哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験において陰性の報告がある。本物質は生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられるとの報告がある。</p>
発がん性	<p>区分 2</p> <p>国内外の分類機関による既存分類では、EPA で S (Suggestive Evidence of Carcinogenic Potential) に分類されている。</p> <p>ラットに本物質を 2 年間混餌投与した試験では発がん性は認められなかった。また、雌雄のマウスに本物質を 2 年間混餌投与した試験では、最高用量で雌に肝細胞腺腫及びがん、雄で肺腺腫の発生率が増加した。なお、18 ヶ月の投与後に認められた体重増加抑制に基づき最高用量は最大耐量を超えたと結論され、最高用量でみられた腫瘍は毒性学的に有意ではないとみなされ、本物質は発がん性なしと結論された。</p> <p>雌雄のマウスに本物質を 18 ヶ月間又は 2 年間混餌投与した発がん性試験において、雌でリンパ/細網細胞系腫瘍 (lymphoreticular tumors)、肝細胞がん及び肝細胞腺腫の発生頻度増加が認められたが、明らかな毒性を示した高用量のみで認められ、遺伝毒性も認められていない。</p>
生殖毒性	<p>区分 2、授乳に対するまたは授乳を介した影響に関する追加区分</p> <p>ラットを用いた混餌による 3 世代繁殖試験において、200 ppm 投与群 P 世代において、発育及び摂餌量に僅かな一時的抑制が認められ、同群 F<sub>1</sub> 世代の哺育期間中に顕著な死亡率増加が生じた。このため、200 ppm 投与群の試験は F<sub>1</sub> 世代で終了とされている。50 ppm 投与群では、腹数及び平均同腹児数に検体投与の影響は認められなかったが、全世代の児動物で死亡率の僅かな増加が認められ、有意差はないものの哺育 21 日目の同腹児数は対照群より少なかった。</p> <p>ラットを用いた混餌投与による拡張 1 世代繁殖毒性試験において、P 親動物に毒性がみられない用量 (1.5 mg/kg/day) において、児動物毒性 (生後 21 日での甲状腺/上皮小体重増加 (雌))、F<sub>1</sub> 世代の離乳後の影響 (生後 90 日での T4 減少 (雌)) がみられた。P 親動物に毒性 (活</p>

動性低下、アルカリ性ホスファターゼ活性増加、接触時の発声、取り扱い時の反応亢進、体重減少等) がみられる用量 (7.5 mg/kg/day) で児動物毒性 (生後 1~5 日での死亡の増加 (哺育 1 日で痙攣を起こした母動物の 6 匹の児の喪失を含む)、生存率減少、生後 21 日の体重減少、生後 7~21 日の体重増加量減少、生後 21 日での海馬回と脳梁の厚さの減少 (雄)) がみられ、F<sub>1</sub> 世代の離乳後の影響 (体重減少、取り扱いの反応亢進、立ち上がり減少、活動性低下、アルカリ性ホスファターゼ活性増加、AST、ALT 及び GGT 増加、ビリルビン増加、肝細胞空胞化、扁桃体の神経変性 (1 例) 等)、生殖毒性 (F<sub>1</sub> 出生児数のわずかな減少、子宮絶対重量減少、F<sub>1</sub> 雌動物で発情間期の持続、発情前期増加、原始卵胞の増加等) がみられている。

妊娠ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験において、母動物毒性 (15 mg/kg/day 以上で体重増加抑制、摂餌量低下) がみられる用量で胎児に尿管拡張及び両側性の腎盂拡張が認められている。

妊娠ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験において、母動物毒性 (12 mg/kg/day で体重増加抑制) がみられる用量において、胎児に低体重が認められている。

#### 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

区分 1 (神経系)、区分 3 (麻酔作用)

本物質 (原液 50 cc) を摂取した 17 歳の男性農場労働者で、昏睡、呼吸低下、動脈性低血圧、徐脈がみられた。ボランティア 2 人へ本物質 (0.25 mg/kg) を単回経口投与した結果、眠気、見当識障害、発話不明瞭、脈拍数、血圧低下がみられた。

ラットの急性経口神経毒性試験において、最低用量 (50 mg/kg、区分 1 の範囲) 以上で、体重減少、運動活動低下がみられた。200 mg/kg (区分 1 の範囲) 以上で、腹部汚染 (soiled periculus)、呼吸緩徐、前肢握力低下、800 mg/kg (区分 2 の範囲) 以上で、過敏症、後肢握力異常、痙攣、歩行不能等がみられた。

#### 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

区分 1 (中枢神経系、肝臓)

イヌの 90 日間カプセル経口投与試験では、1.0 mg/kg/day (区分 1 の範囲) 以上で中枢神経系の抑制、運動失調、回帰性の直腸温及び心拍数低下、肝細胞肥大がみられたとの報告がある。

ラットの 2 年間混餌投与試験では、50 ppm (ガイダンス換算値: 2.5 mg/kg/day、区分 1 の範囲) で神経過敏、興奮性及び攻撃性がみられたとの報告がある。

マウスの 2 年間混餌投与試験では、25 ppm (ガイダンス換算値: 1.25 mg/kg/day、区分 1 の範囲) 以上の雌で肝臓の過形成性結節、好塩基性肝細胞変性及び斑状血管拡張、100 ppm (ガイダンス換算値: 5 mg/kg/day、区分 1 の範囲) 以上の雄で攻撃行動、400 ppm (ガイダンス換算値: 20 mg/kg/day、区分 2 の範囲) の雄で自発運動の亢進、立

毛及び円背位の増加、肝腫瘍がみられたとの報告がある。

ラットの21日間吸入ばく露試験では、0.1 mg/L (粉じん、区分2の範囲) 以上で呼吸困難、音に対する感受性低下、指診に対する過敏性、攻撃性がみられたとの報告がある。

誤えん有害性

分類できない

データ不足のため分類できない。

## 酢酸ビニル

急性毒性 (経口)

区分に該当しない

ラット LD<sub>50</sub>: 2,920 mg/kg

ラット LD<sub>50</sub>: 3,470 mg/kg

ラット LD<sub>50</sub>: 2,900 mg/kg

ラット LD<sub>50</sub>: 1,600~3,480 mg/kg

急性毒性 (経皮)

区分に該当しない

ウサギ LD<sub>50</sub>: 8.0 mL/kg (7,440 mg/kg)

ウサギ LD<sub>50</sub>: 2,335 mg/kg

ウサギ LD<sub>50</sub>: 2.5 mL/kg (2,325 mg/kg)

ウサギ LD<sub>50</sub>: 2,335~7,470 mg/kg

急性毒性 (吸入：ガス)

区分に該当しない

GHSの定義における液体である。

急性毒性 (吸入：蒸気)

区分4

ラット LC<sub>50</sub> (4時間): 3,680 ppm

ラット LC<sub>50</sub> (4時間): 4,490 ppm

ラット LC<sub>50</sub> (4時間): 15.8 mg/L (4,487.3 ppm)、14.1 mg/L (4,004.5 ppm)

ラット LC<sub>50</sub> (4時間): 3,200~4,490 ppm

ラット LC<sub>50</sub> (4時間): 11,400 mg/m<sup>3</sup> (3,237.7 ppm)

急性毒性 (吸入：粉じん/ミスト)

分類できない

データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性/刺激性

区分2

作業者の事例では本物質へのばく露による刺激性がみられており、長期のばく露では水疱を生じる。

本物質 (0.5 mL) をウサギの適用により軽度の浮腫が観察された。

ウサギを用いた皮膚刺激性試験で軽度の刺激性が認められた。

本物質は粘膜・皮膚を刺激し、高濃度では皮膚脱脂作用がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

区分2

本物質はヒトにおいて21.6 ppmで眼と喉への刺激が報告されている。

ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の刺激性が認められた。

本物質は高濃度で結膜に刺激性を有する。

気化した本物質及び直接のばく露は眼に刺激性を示す。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	<p>本物質（1～2滴）をウサギの眼に適用した眼刺激性試験で角膜混濁、結膜発赤、重度の結膜浮腫が24時間後にみられたが、8日以内に回復した。</p> <p>呼吸器感作性：分類できない データ不足のため分類できない。 皮膚感作性：区分に該当しない</p> <p>OECD TG 429に準拠したマウス局所リンパ節試験（LLNA）において、SI値は3未満であり、陰性と判定された。</p>
生殖細胞変異原性	<p>区分2</p> <p><i>in vivo</i> では、腹腔内投与又は吸入ばく露による多くのマウス、ラットの骨髄及びマウス精原細胞の小核試験で陰性の報告があるが、腹腔内投与のラット骨髄小核試験（NTP Study Number：A23879）は証拠の重み付けにより、総合的に陽性と評価される。また、ラット骨髄の染色体異常試験及び姉妹染色分体交換試験では陽性の報告がある。</p> <p><i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験及びマウスリンフォーマ試験で陽性の報告がある。</p>
発がん性	<p>区分1B</p> <p>ラットを用いたがん原性試験（2年間飲水投与）で、雄投与群に口腔の扁平上皮がんと扁平上皮乳頭腫、雌投与群に口腔と食道の扁平上皮がんの発生増加がみられた。</p> <p>マウスを用いたがん原性試験（2年間飲水投与）で、雌雄の投与群に口腔と胃の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、食道と喉頭の扁平上皮がんの発生増加が認められた。</p> <p>ラットに2年間吸入ばく露した試験で、鼻腔の扁平上皮がん、扁平上皮乳頭腫、上皮内がんの発生が認められた。</p> <p>国内外の分類機関による既存分類としては、IARCがグループ2B、EU CLPでCarc. 2、日本産業衛生学会が2B、ACGIHがA3にそれぞれ分類している。</p> <p>本物質は労働安全衛生法第28条第3項の規定に基づき、厚生労働大臣が定める化学物質による労働者の健康障害を防止するための改正指針の対象物質である。</p>
生殖毒性	<p>分類できない</p> <p>ラットを用いた飲水投与による2世代生殖毒性試験において、親動物に嗜好性による飲水量の低下とそれに起因した体重増加抑制がみられる用量で、わずかな妊娠率低下と児動物の体重増加抑制がみられている。なお、妊娠率の低下は交叉交配の結果、雄動物の生殖能に関係し、受胎の障害ではなく雄動物の交尾能が劣っていることが原因と考えられるが、精巣の病理組織学的検査では正常であることが報告されている。なお、ATSDRでは、同じ試験と思われる試験結果について、妊娠率低下は有意差がなく背景データの範囲内であるとしている。また、児動物の体重増加抑制は母動物の成長遅延に起因した可能性があり、胎児に対する直接的な毒性影響ではない</p>

特定標的臓器毒性（単回ばく露）	可能性が高いとしている。 雌ラットの妊娠6～15日に飲水投与した発生毒性試験において、影響はみられていない。 雌ラットの妊娠6～15日に吸入ばく露した発生毒性試験において、1,000 ppmで母動物に体重増加抑制がみられ、胎児に体重減少、頭臀長短縮、骨化遅延がみられている。 区分3（麻酔作用、気道刺激性） ボランティアによる試験で、本物質72 ppm、30分の吸入ばく露で4人の被験者全員が喉粘膜の刺激を訴えたとの報告がある。 本物質は粘膜・皮膚を刺激し、高濃度では皮膚脱脂、麻酔作用があるとの記載がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分2（呼吸器） マウスを用いた2年間の吸入毒性試験の結果、200 ppm以上（ガイダンス値換算：0.7 mg/L、区分2の範囲）で鼻腔の嗅上皮の萎縮、粘液分泌腺の萎縮、600 ppm（ガイダンス値換算：2.1 mg/L、区分2超）で気管支上皮の剥離又は扁平化、肺に色素食食マクロファージの集簇等がみられた。 ラットを用いた2年間の吸入毒性試験の結果、200 ppm以上（ガイダンス値換算：0.7 mg/L、区分2の範囲）で鼻腔嗅上皮の扁平上皮化生と萎縮、基底細胞の過形成、600 ppm（ガイダンス値換算：2.1 mg/L、区分2超）で気管支上皮の剥離又は扁平化、肺に色素食食マクロファージの集簇等がみられた。
誤えん有害性	分類できない データ不足のため分類できない。

---

## 12 環境影響情報

---

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 成分の環境影響情報

#### アミトラス

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 区分1 甲殻類（オオミジンコ）48時間 EC <sub>50</sub> = 0.035 mg/L であることから、区分1とした。 水生環境有害性 長期（慢性） 区分1 急速分解性がなく、甲殻類（オオミジンコ）の21日間 NOEC = 0.0011 mg/L から、区分1とした。
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし

土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

**酢酸ビニル**

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 区分2 魚類(ヒメダカ)96時間 LC <sub>50</sub> = 2.4 mg/L であることから、区分2とした。
残留性・分解性	水生環境有害性 長期（慢性） 区分3 急速分解性があり（28日でのBOD分解度=82、98、89%）、藻類(セレナストラム)の72時間NOEC = 0.2 mg/L であることから、区分3とした。
生物蓄積性	急速分解性がある（28日でのBOD分解度=82、98、89%） BCF : 3.16 Log Kow : 0.73 (pH : 7 (25°C))
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

**13 廃棄上の注意****化学品汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
残余廃棄物**

製品は家庭ごみと一緒に処分できない。また下水処理施設に流してはいけない。  
使用済みのシート及び容器等は、地方公共団体条例等に従い処分すること。  
廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

**汚染容器及び包装**

洗浄されていないパッケージは都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

**14 輸送上の注意****国際規制**

陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	3077
品名（国連輸送名）	環境有害物質、固体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	3077
品名（国連輸送名）	環境有害物質、固体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	3077
品名（国連輸送名）	環境有害物質、固体、他に品名が明示されていないもの
国連分類	9
副次危険性	-
容器等級	III

#### 海洋汚染物質

該当

#### MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

#### 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、包装あるいは容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

#### 国内規制

陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。

### 15 適用法令

#### 該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出把握管理促進法	第2種指定化学物質(管理番号 432 3-メチル-1,5-ジ(2,4-キシリル)-1,3,5-トリアザペンタ-1,4-ジエン(別名アミトラズ))
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(3-メチル-1,5-ジ(2,4-キシリル)-1,3,5-トリアザペンタ-1,4-ジエン(別名アミトラズ))(1重量%以上を含有する製剤その他の物。)(2025年4月1日以降)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物(3-メチル-1,5-ジ(2,4-キシリル)-1,3,5-トリアザペンタ-1,4-ジエン(別名アミトラズ))(0.1重量%以上を含有する製剤その他の物。)(2025年4月1日以降)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物(酢酸ビニル)(1重量%以上を含有する製剤その他の物。)(2025年3月31日まで)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物(酢酸ビニル)(0.1重量%以上を含有する製剤その他の物。)(2025年4月1日以降)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物(酢酸ビニル)(0.1重量%以上を含有する製剤その他の物。)

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（3-メチル-1,5-ジ（2,4-キシリル）-1,3,5-トリアザペンタ-1,4-ジエン（別名アミトラズ））・化学物質又は化学物質を含有する製剤・含有量が1重量%未満のものを除く。・特化則等の特別規則において、皮膚又は眼の障害等を防止するために不浸透性の保護衣等の使用が義務付けられているものを除く。

がん原性物質（酢酸ビニル）・日本産業規格 Z7252（GHSに基づく化学品の分類方法）の附属書 B に定める方法により国が行う化学物質の有害性の分類の結果、発がん性の区分が区分 1 に該当する物・含有する製剤その他の物。ただし、含有量が 0.1 重量%未満のものを除く。

濃度基準値設定物質（酢酸ビニル）

毒物及び劇物取締法

該当しない

### その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

薬機法	動物用医薬品
化学物質審査規制法	優先評価化学物質（酢酸ビニル）
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質（酢酸ビニル）
	揮発性有機化合物（酢酸ビニル）
海洋汚染防止法	有害液体物質・Y 類物質（酢酸ビニル）
航空法	環境有害物質（固体）
船舶安全法	環境有害物質（固体）
外国為替及び外国貿易法	輸出許可貨物・補完品目（キャッチオール規制）（有機化学品）・武器から機微品目の項に掲げるものを除く。

## 16 その他の情報

### 参考文献

アリスタ ライフサイエンス株式会社提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2025）

日本産業衛生学会（2024）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2024) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。